

8月1日(月)

## 恵みと親切

聖書朗読 ルカ 4:14~19

ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。

Iコリント 15:10

ロンドンのすぐ外のハンプトン・コート宮殿はなにより、イギリス国王、もっとも特筆すべきはヘンリー8世の歴史的に重要な住居です。しかし宮殿の城壁の中では、控えめな設えの戸口の横に、そこに書かれていなければ誰も知らないような人々の名前を書いた銘板が見つかります。その人々は宮殿の中に対価もなく、国王の「恵みと親切」のゆえに住んでいた人々なのです。

その人たちの内の一部は、王家の召使いでした。退役軍人もいました。それ以外の人たちはただ、国王や女王のための特定の奉仕を行っていました。彼らの小さな奉仕がどのようなものであったにせよ、その報酬は金で買うことのできないものでした。宮殿の中の部屋です。

主に仕えることはそれと似ています。私たちの父なる主の家にはたくさんの住まい、または部屋があります(ヨハネ14:2)。それらは買うことのできないものですが、ただ主である国王の「恵みと親切」のゆえに私たちのものなのです。そのことは、主権者が私たちの名前を知っておられ、私たちのために場所を用意してくださっていることと同じです。私たちはそれを買うことはできませんし、報酬として得ることもできません。しかし、その場所は、私たちのために、今もそして永遠に、神様の恵みによって確保されているのです。私たちは主である国王に知られており、その国王の恵みと親切を受け取っているのです。

讃美歌 356

祈り 天のお父様、あなたの恵みと親切に感謝します。イエス様のゆえに、私たちが永遠に生きる場所を知っていることに感謝します。

イエス様の御名によって。アーメン

ジョシュ・ボイド

## 今日の方

2022年8月1日~8月7日

翻訳 鈴木 慈久

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

8月2日(火)

## イエスを驚かせるために

聖書朗読 ルカ 7：1～10

これを聞いて、イエスは驚かれ、ついて来ていた群衆のほうに向いて言われた。「あなたがたに言いますが、このようなりっぱな信仰は、イスラエルの中にも見たことがありません。  
ルカ 7：9

あなたが驚くことって何ですか？ 今月のガス代の請求書？ 大学の授業料の高さ？ 高性能な望遠鏡で見た美しい夜空？ プライドの高い人の厚かましき？ イエスが驚かれたことは、謙虚な者の信仰でした。百人隊長は、ユダヤ人の長老たちを送ってイエス様に自分のしもべを癒しに来てくれるように頼みました。ユダヤ人は自分たちを異邦人より上だと考えていましたが、その人はローマの百人隊長で、一般的には、ユダヤ人より高い位と考えられる立場の人でした。しかしながら、その人はユダヤの国を愛し、会堂を建ててくれたのです。

イエスが明らかに百人隊長の家に向かう道にあった時、そのローマ人はイエス様に、自分の家にあなたをお迎えする資格はないと感じるという言葉を送りました。その人は、「ただお言葉をいただければ、召使いは癒されるだろう」と言ったのです。イエス様はその百人隊長の信仰に驚きました。

私たちがこの世でどのような立場にあったとしても、私たちの必要を満たすことができるのはイエス様だけだと認識する類の信仰を持つには、謙虚が必要です。

私たちは自分の良い功績によってイエス様に何かを請求する資格はありませんが、私たちが謙虚にイエス様の臨在を乞うときに、イエス様は聞いてくださるのです。

讃美歌 268

祈り 聖なるお父様、私たちがあなたの子どもとなるように、イエス様を送ってください。あなたの聖霊を通して私たちを導き、私たちの信仰を強めてください。

イエス様の御名により。アーメン。

メアリ・エステス

8月3日(水)

## なんというチャンレンジ！

聖書朗読 ルカ 9：23～27

わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください。

マタイ 26：3

多くの人は、キリスト教に触れているのですが、学んでいくうちに自分のライフスタイルを変えなければならないことに気づき、それは出来ないと諦めてしまうのです。しかし、もし最初にイエス様のめぐみのすばらしさを知ったならば、私たちは、イエス様について行かない訳には行かなくなるのです。イエス様のすばらしいめぐみを知ることがクリスチャンのスタートです。

さて、今日の聖書箇所に戻ります。自分がしたいことではなく、主のみこころがなりますようにと言っているのです。このチャレンジにはびっくりさせられます。この呼びかけは私たちが持っているいくつかのものを諦めろというのでも、自分にとってあまり大事ではないものを捨てなさいなどと言っているのではありません。この自己否定への呼びかけはちょっとやさそつでは出来ないことをしなさいと言っているのです。それも、特別な者にはなく、全ての人に言っているのです。

イエス様の自己否定の呼びかけは、誠実なクリスチャンが日々の生活を居心地悪く過ごすために生み出されたものなののでしょうか。私たちは生きていく上で、日々自己と向き合い一つ一つのことを決断していきます。それが大きい物であれ、小さいものであれ、一つ一つに向き合って決断を下していくのです。それによって自分は何者であるかということを知らせていくのです。どういふことかといいますと、「すべてにおいて主のみこころになる」ように、日々決断して歩んで行くことが私たちの日々のチャレンジです。

完全な意味で試練を乗り越えた人がいるかどうか私には分かりません。殉教者たちはそこに近づいたかもしれません。パウロもそうかもしれません。勿論、イエス様は試練に出会い、それを乗り越え、十字架にかかり、復活されました。しかし、イエス様ですら、それは簡単なことではありませんでした！ しかし、主は、そのイエス様に倣い、自分を捨て、主に従うように呼びかけておられます。イエス様はそのチャレンジに値するお方です。主にある溢れる恵みを知っている私たちは、信仰を持ってそのチャレンジを受けていきましょう。

讃美歌 333

祈り おお、神様、私たちに主にある力を、主にある信仰を、主にある決断する力をお与え下さい。また失敗したときに立ち直る力をお与え下さい。

救い主の御名によって。アーメン！

ロバート・W・ローレンス

8月4日(木)

## たくさんの雀よりも

聖書朗読 ルカ 12:4~7

五羽の雀はニアサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れられてはいません・・・恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。 ルカ 12:6~7

私は鳥たちを見るのが大好きで、自分のオフィスの窓のすぐ外で鳥に餌をあげる人の元に群れるさまざまな種類の鳥の足跡をとっておいています。私は鳥たちの明るい色の羽根が好きで、鳥たちはいつも私に神様の御手のわざを思い起こさせます。

私は日常的に、鳥から餌の種を盗む厄介なリスとの戦いに立ち合います。ある日、私は窓の外の騒音を聞いてリスだろうと思いました。しかしながら、その代わりに私が見たのは、鳥の小屋で小さな茶色の鳥の群れが餌をガツガツ食べる姿でした。私が最初にとった行動は、その鳥たちを追い払うことでしたが、その時私は、イエス様が弟子たちに、神様は小さな雀の一羽一羽を知っておられると話されたことを思い出しました。雀たちも神様の被造物であり、明るい色の羽根を持っている鳥たちと同様に美しいものなのです。

イエス様は教えを続け、弟子たちに彼らはたくさんの雀よりもすぐれた者であって、神様は彼らの頭の毛の本数すらも数えておられると話しました。神様は御自身の被造物を知っておられ、気にかけておられるのです。

私たちは自分が無価値で特別なところもなく、市場で安く売られている雀と同じだと感じるがあると思います。神様が雀を知っておられるように、私たちのことも知っておられるのだということを、私たちは覚えている必要があるのです。

新聖歌 285 一羽のすずめ

祈り 親愛なる神様、宇宙を造られた方。美しい世界と、私たちすべてのことを隅から隅まで知っていてくださることに感謝します。私たちが、あなたの御心通りの被造物であることができるように助けてください。

イエス様の御名により。アーメン。

ジョイス・ハーディン

8月5日(金)

## 家の中の一番いい椅子

聖書朗読 ルカ14:7~14

なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。 ルカ14:11

私が家族とともにホッケー競技場の最上階の席に向かっていった時、ある婦人が私のところに来て「この建物の一番いい席はいかがですか?」と尋ねました。私は心の中で懐疑的に思いつつ、「はい、それはすばらしいですね」と言いました。すると、婦人は私たちをエスコートして、競技場を半分回って、私たちを絶景のバルコニーにある、大型で革製のリクライニングシートに連れて行ってくれました。それだけではなく、3ピリオド目が始まる時には、カメラが私たちを捉え、私たちは競技場の上にある巨大なスクリーンに映し出されたのです。まるで重要人物になったかのような気分でした!

イエス様は私たちに名誉ある地位を目指すのではなく、むしろ謙遜し、自分達をもっとも低いところに置き、他者に仕えることを強く勧められます。真の謙虚さとは、人間的なプライドを捨てて、救い主を切に求めている人々に対して謙虚にお仕えしていくことです。神様が私たちを助け、神様の王国で自ら進んで効果的な奉仕をすることができるようになりますように。私たちが謙虚であるとき、私たちは主にあって一つになることができます。

謙遜な心だけが

同じ心になれるのです。

R・C・ベル

讃美歌 21 520 真実に清く生きたい

祈り 親愛なる主よ、私たちがあなたに仕えるために真に自分を低くすることができるよう助けてください。

イエス様の御名により。アーメン。

ダニー・ダンカン

8月6日(土)

## お 帰 り な さ い

聖書朗読 ルカ15:1~10

見よ。わたしは、戸の外に立ってたく。

黙示録 3:20

私のある友達は、長いこと教会から離れていましたが、次第に思い直すようになりました。その人は自分の主に対する冷淡さを悔い改め、再び人生をイエス様に従うことに捧げました。その人は活動的になり、教会で生き生きと生活しています。

ある時、私は主の元に戻りたいにも関わらず、決して受け入れてもらえないだろうと感じている人と出会うことがあります。その人は教会で歓迎されていると感じていないのです。

さて、あなたの教会はそのような方々を受け入れる準備が来ている教会でしょうか。また、あなた自身の家庭はどうですか。そのような方々を受けられる温かい家庭でしょうか。

迷子の羊が家に帰ってこれるように祈りましょう。彼らの帰りを待ち望みたいですね。そして帰ってきた時には、愛を持って迎え入れたいです。赦しの手を差し伸べましょう。

また、人に恨みをもってはいけません。過去のことを蒸し返してもいけません。これまでの生活について怒ってはいけません。彼らの過去を詮索してもいけません。

今この時も、イエス様は御自身から離れてしまった人々の心のドアをノックしています。イエス様は、彼らがイエス様を心の中に戻らせるように呼びかけています。イエス様は、彼らが望むなら、友人として食事を共にすることを約束してくださっています。

私たちは、彼らを家にお迎えするにあたって、歓迎し温かくお迎えできますようにしたいですね。

讃美歌 II 167

祈り 親愛なる神様、あなたは御自身から離れた人たちが家に帰ってくることを望んでおられます。私たちが、彼らの帰ってきたいと思う場所、彼らがあなたの家族に戻ってくるのを歓迎する場所であることができるように助けてください。

イエス様の御名により。アーメン。

スティーブ・リジェル

8月7日(日)

## 誰が帰ってきたと思いますか？

聖書朗読 ルカ15:11~24

この息子は、死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだから。

ルカ15:24

娘が、表の玄関で迷子の猫を見つけました。やっていかどうか聞くこともなく、娘は猫に餌をあげ、そして必然的なことが起こりました。その猫が家に入ってきたのです。年寄りのトムは家に居座り、そして彼の柔らかい灰色の体と静かにゴロゴロ言う声はすぐに、私たちの生活の中で重要なものとなりました。しかし彼は路上での生活を捨てたわけではありません。彼は時に数週間もいなくなり、もう永遠に戻ってこないのだと私たちが判断したちょうどその頃になって帰ってきました——汚れて怪我を負った猫が。

私たちの中には放蕩息子のような思いとこの野良猫のトムのよう気持ちを自分の中に持っているのではないのでしょうか。神様の家族である快適さを楽しんでいる間に、時々自立心が私たちを悩ませ、そして最後には霊的に、時には身体的にさえ、傷を負ってしまうのです。

年寄りのトムが何度さまよい出て行ったとしても、トムが帰ってくれば、「誰が帰ってきたと思う？」とトムを最初に発見した家族は喜んで叫んだものです。そして我先にと家族の誰かがボールに注いだミルクを彼にあげるのです。そして他の家族は彼のために温かいお風呂を用意するのです。

放蕩息子の兄は「誰が帰ってきたと思う？」と嘲笑うのですが、父なる神は抱きしめるために走るのです！ 私たちがさまよい出ていく度に、神様は私たちの帰りを待ち望んでいます。そうです、謙遜な気持ちをもって我が家に帰ろうではありませんか。

讃美歌 317

祈り 主よ、罪深さゆえに、私たちは愚かにもあなたの愛のある見守りの中から迷い出てしまいます。あなたの愛が、愚かな子どもたちが家に帰ってくるのを迎え入れて下さることに感謝します。

イエス様の御名により。アーメン。

マデリン・ピーターソン